

英語科学習指導案

日 時	平成21年10月23日(金)	校時
生 徒	2年1組 男子20名 女子18名	
	合計38名	
場 所	教室棟2階 英語室	
授業者	小野 建 (T1)	
	高橋 妙子 (T2)	
	ダニエル・デグラス (ALT)	

1. 単元名 NEW HORIZON English Course Book 2 Unit 5 A Park or a Parking Area?

2. 単元について

(1) 教材観

本単元は、歩道にあった自転車が倒れて女の子が怪我をする、という事故を題材にしている。

Starting Out は、マイクが友人から「妹がけがをして入院したので見舞いに来てほしい」というファックスを受け取る場面で、ファックスの英文には **if** 節が使用されている。**Dialog** は、事故の原因についてマイクと絵美が対話する場面で、マイクは「新しい駐輪場が必要だ」という意見を述べる際に **that** 節を使用している。**Reading for Communication** の前半は、「公園をつぶして駐輪場にする」という市の決定を伝える新聞記事で、**when** 節を扱う。後半は市の決定に対する投書欄の意見文で **because** 節を扱う。

身近な日常の問題を扱いながら、「事実を伝える」「意見を述べる」という言語活動が可能な内容となっており、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4技能を総合的に学習しながら、自分と相手の内面に触れるコミュニケーションを展開させることのできる魅力的な教材である。後半で扱う英字新聞の記事を読んだり、さらに、意見文を書いたりという活動に生徒はやや難解な印象を持つと考えられるが、事実を正しく把握し、その内容に対して自分の考えを持ち、表現するということは英語学習で身につけさせたい力である。細かなステップを踏みながら取り組ませ、達成感を持たせたい。

(2) 生徒観

2年A組の生徒と一緒に授業を始めてちょうど半年が過ぎるところである。年度初めに実施したレディネステストでは、1年生の言語に関わる知識の定着が不十分であるということがわかった。文法事項に関しては、文型、時制に関する知識は半数以上の生徒が不正解だった。また、語彙に関しても半数以上の生徒が正確に単語の綴りを書けない状況だった。

また、アンケートでは、「英語の学習が好きですか」という質問に対して、「とても好き、好き」と答えた生徒が16名だったのに対し、「全然好きではない、好きではない」と答えた生徒は20名もいた。好きではない理由は「単語の綴りや意味が覚えられない」「語順がわからない」「文法がわからない」などであり、定着の不十分さ、自信のなさが原因であると考えられる。「将来英語が必要か」という質問に対しては、30名の生徒が「必要」と答えていたことから、英語の必要性は感じるものの、難しく自分にはできないと否定的になっていることが予測できた。

これまでの授業においても、上位生徒、低位生徒の能力と定着度の差、英語学習に対する粘り強さ、意欲の差が大きい集団であることを感じている。低位生徒に配慮し既習事項の復習を十分に行い基礎英語力の確立を図ると共に、上位生徒への対応として、より高い目標を持たせながら指導していく必要性を感じている。

基礎英語力の確立を図る具体的な取り組みとして、1学期間は授業と家庭学習の両方で意識的に語彙の学習を増やしてきた。特に、単語レベルの学習だけでなく、フレーズレベルで学習を繰り返すことにより、少しずつではあるが、語彙力が向上してきている。また、フレーズを活用したパターンプラクティスを徹底して行った結果、以前よりも文を書く力が向上してきている。この取り組みを通して、前より分かるようになってきたという感想も聞かれるようになってきた。また、英作文をする機会を増やしていくことで、以前よりも英作文をすることに対する抵抗感が減ってきているようである。家庭学習の取り組み状況は、約7割の生徒がやっている状況である。

(3) 指導観

本単元を指導していくにあたって、注意すべきことがいくつか考えられる。

第一に、音読指導で力と自信をつけさせることである。語彙、文法、英作文といった面で苦手意識はあるものの、音読は比較的できると感じている生徒が多いということがアンケートから分かっているので、音読を中心とした指導を展開し、基本の習得を目指したい。その際、文字と音声の関連を意識させた語彙の発音指導と語彙を書く指導、教科書の本文と基本本文の音読・暗唱といったインプット活動を行っていききたい。

第二に、インプットした英文のパターンを活用し、自分の考えを英作文していく自己表現活動を展開したい。教科書や一定の長さの英文（4～5文程度）のインプット活動で基本を習得した後、自分の考えを表現していく活動を多く行うことにより、定着がより深まると考える。その際、既習の単語、連語、文型をスパイラルに学習して生徒に想起させ、既習事項を英作文に活用させたい。

第三に、英作文をした文を他者との意見の交流などを通してさらに活用させ、本単元で学習した内容をより深く、広く探求させていきたい。

これまで半年間、音読、フレーズ練習を基本としながら、自己表現活動を行ってきた。その中で、生徒へ細かな対応を必要とする場面が多く見られた。本校での英語指導は、英語教師の単独での指導を基本としつつも、週1回ティームティーチング（以下TT）を行っている。このTTは、ALTとのTTではなく、日本人英語教師同士のTTである。この指導の強みは、日本語、英語の双方を理解し、生徒から近い存在であること、そして、指導目標の共有化が容易で、生徒に対して共通の迫り方、より細かな対応が可能であることが挙げられる。特に英作文やグループワークで行きづまった生徒への援助、低位の生徒への援助が可能だった。さらに2学期からアシスタントランゲージティーチャー（以下ALT）が配属になり、ALTも交えたTTを週1回程度行っている。ネイティブスピーカーの発音や音読といった音声面の指導のみならず、「英語が通じた」という実感を持たせられるため、その存在は大きなモチベーションを生むと考えられる。本単元においても、教師3人がそれぞれの長所を生かし効果的に指導し、学習者を目標達成へと導きたい。

3単元の目標

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ①新聞の投書の意見を読んで、内容を理解し、その内容に対する自分の意見を述べようとする。
- ②身近な内容についての自分の意見とその理由を積極的に発表しようとしている。

【表現の能力】

- ① if 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。
- ② that 節（目的）を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な対話が表現できる。
- ③ when 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。
- ④ because 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。

【理解の能力】

- ①新聞記事を読んで、内容を理解する。
- ②投書の意見を読んで、内容を理解し、また、それを参考にして、自分の意見を述べることができる。
- ③身近な内容について自分の意見とその理由を述べ、相手の意見とその理由を聞いて内容を理解することができる。

【言語や文化についての知識・理解】

- ① if 節、that 節、when 節、because 節の文の形・意味・用法について理解する。

4 評価の観点と具体の評価規準

時	学習内容 (重点目標)	主な言語活動	観点別評価の重点領域												家庭学習 との関わり				
			関・意・態				表現			理解		言語・文化							
			L	S	R	W	S	R	W	L	R	L	S	R		W			
第1時	【Starting Out】 ・if節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。	・faxの内容理解と音読 ・if節を用いて英文を書く。											○						・if節の基本文練習 ・本文音読
第2時 第3時	【Dialog】 ・that節(目的)を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な対話が表現できる。	・対話文の内容理解と音読、問答 ・that節を用いて、英文を書き、意見を述べる。			○		○						○		○				・that節の基本文練習 ・本文音読練習
第4時	【Reading for Communication】 ・when節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。	・英字新聞の内容の理解と音読 ・when節を用いて、事実を述べる文を書く。											○				○		・when節基本文練習 ・本文音読練習
第5時 第6時	【Reading for Communication】 because節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。	・because節を用いた文の形・意味・用法を理解し表現できる。 ・投書の意見を読んで、内容を理解し、簡単に自分の意見をのべる。						○	○								○		・because節基本文練習 ・本文音読練習
第7時 第8時 本時	【単元の総合学習】 身近な内容について自分の意見とその理由を小集団のなかでディスカッションをすることができる。	簡単な話題について意見と理由を述べる。小集団のなかでディスカッションをする。		○			○				○		○	○					・基本例文・フレーズ練習 ・意見文復習
	Listening Plus 5	テレビのニュースを聞き取る。	○										○		○				・聞き取ったニュースを英文にする。
	Speaking Plus 3	体の不調を訴える。						○								○			・本文音読

*○印の部分は授業を通して、重点的に評価を実施する観点である。

5 本時について

(1) 本時の目標

- ・身近なトピックについて自分の意見とその理由（英文3文）を書くことができる。
- ・身近なトピックについて自分の意見とその理由（英文3文）を発表することができる。
- ・相手の意見とその理由を聞いて、メモを取ることができる。

(2) 指導の構想

これまでの指導の経緯から、次のように本時の指導を考えた。

第一に、本時の目標の1つとして意見文とその理由を一般動詞を用いた文と it is 形容詞などの文で3文程度の英文を書けるようになることを設定した。生徒達の課題の1つである表現の能力（書くこと—自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと）を向上させるためである。意見とその理由を述べることは、いわゆるロジックビルディングをすることである。ロジックビルディングとは、自分の考えを「なぜなら」という接続詞から始まる文で論理的に説明するための論理的な思考を重ねることである。この目標を達成するための手立てとして、以前から活用しているフレーズ集を使って文型を口頭で反復練習すること、モデル対話を読んでロジックビルディングの参考にさせることによって形を習得させ、日本語で意見とその理由が書くこと、そして英文を書くことによって活用させたい。各段階において、英語の語順を意識させて学習させていくことで目標を達成させたい。

第二に、本時のもう1つの目標として、自分の意見とその理由を述べられるようになることを設定した。生徒達の課題の1つである表現の能力（話すこと—自分の考えや気持ちなどが聞き手に正しく伝わるように話すこと）を向上させるためである。この目標を達成するための過程で、既習の文型を総合的に使うことができ、相手の内面に触れることのできるコミュニケーションとなるので、英語力の向上につながると考えられる。

この目標を達成するために指導する際、小集団の学習形態で意見文を発表する、いわゆるディスカッションの形を導入し、学習者一人一人への学習の必然性を高めたい。小集団とは4人で作られるグループで、学級に9グループ作っておく。グループ内の4人をそれぞれA, B, C, Dとする。この学習形態をとることによって、生徒一人ひとりに役割を分担し話し合いに参加しなければならない責任を感じさせ、学習者としての自覚を植え付けさせたい。また、ディスカッションに入る前段階の3の英作文と4のその練習を学習課題を乗り越えるためのよりどころとしたい。一人ひとりが伝えなければならない情報を正確にとらえさせ、ことばそのものに対するこだわりを持たせたい。

(3) 家庭学習と授業のサイクル化について

本時のための予習としては、自分の意見を日本語で書いてくること、また、モデル会話を音読すること、ディスカッションをするためにカギとなる表現を書いて練習してくることを指示した。ディスカッションは意見の交流であり、自分の考えを明らかにしておくこと、表現するための手段を習得しておくことは本時のよりどころとなる。

本時の復習としては、自分が書いた英文を読みながら4～5回読みながら書くことと、それからグループ内の他者の意見とその理由の文を英文で書くことを指示する予定である。授業でしっかりと学習することが要求される家庭学習（宿題）として与えることで、授業、家庭学習の連動を強めたい。

(4) 本時の評価規準

	評価場面 (方法) [Unit 5 総合演習]	A : 十分満足	B : 概ね満足	C : 努力を要する生徒への対応
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】	身近な話題について自分の意見と理由を英語で言う。 (行動観察・発表)	・相手を意識して十分な声量・聞きやすい間を意識して意見が発表できる。	・相手を意識して、十分な声量で意見が発表できる。	・ Read and look up をして、できるだけ大きな声で意見が発表できるようにする。
【表現の能力】(書くこと)	身近な話題について既習文型を用いて、英文を書く場面 (行動観察・プリント)	・既習文型を用いて、理由の英文4文以上を正しく書くことができる。	・既習文型を用いて、理由の英文3文を正しく書くことができる。	・練習場面で使用した語彙を用いて、文の形・意味・用法を理解させ、英文を書かせる。
【表現の能力】(話すこと)	・既習文型を用いて、意見とその理由の文を発表する場面 (行動観察・発表)	・英文原稿を見ずに、発音・声量・聴きやすい間を意識して意見文を発表している。	・英文原稿を見ずに、発音・声量を意識して、意見文を発表している。	・英文原稿を Read and look up で読み上げさせる。
【理解の能力】(聞くこと)	・意見とその理由の文を交流する場面 (行動観察・プリント)	・発表を聞いて、ポイントを絞って素早く英語で書いている。	・発表を聞いて、ポイントを絞って素早く日本語で書いている。	・注意深く聞かせる。例文を想起させ、注意深く聞かせる。

(5) 本時の展開

教師の役割分担 F = 全体指導 W = 机間指導

本時の評価 = ○ 家庭学習を生かした働きかけ = ●

過程	学習内容	学習活動	指導上の留意点 評価の観点	教師役割分担・ 学習形態
導入 7分	1. Warm up をする。 2. 学習課題の把握 身近な話題についてディスカッションをしよう。	1. ① 英作文を発表する。 ② 1、2年の既習語句の復習	1. ① 2人 ② ペアで時間内に言えるように指示する。 2. 教師のデモンストレーションから身近な話題について英語で話し合えることを意識させ、課題に結びつける。	個人 個人→ペア T1, T3=F T2=W PC T1, T2, T3=F
展開 40分	3. ディスカッションのモデル会話を確認する。	3. モデル会話に含まれる基本表現の意味と用法を復習し、練習をする。	3. ● テンポ良く練習させる。	T1=F, T2=W
	4. トピックについての自分の考えを英作文をする。	4. 基本表現を使って正確に自分の意見とその理由を英文で書く。	4. ○ [表現の能力] (書くこと) <u>基本表現を使って、意見、理由の英文3文が書ける。</u> 〈A〉 英文4文以上 〈C〉 練習場面で使用した語彙を用いて、文の形・意味・用法を理解させ、英文を書かせる。	T1, T2, T3=W
	5. ディスカッションをする。	5. 4人グループに分かれて意見交換をする。英文原稿を見ずに言う。聞く側はlisteningをし、メモを取る。 ① 母集団 ② グループ間でメンバー替える。	5. ○ [表現の能力] (話すこと) <u>自分の意見と理由が言える。</u> 〈A〉 暗唱・発音・声量・アイコンタクト・間 〈C〉 Read and look up させる。 5. ○ [コミュニケーションへの関心・意欲・態度] <u>伝える相手を意識して発表しようとする</u> 〈A〉 十分な声量・強弱・間 〈C〉 Read and look up させる。	学習シート T1=F T2, T3=W 4人グループ(9)
6. 発表	6. 発表	5. ○ [理解の能力] (聞くこと) 相手の意見、その理由を聞き取ってメモを取れる。 〈A〉 ポイント・英語 〈C〉 例文を参考にさせ、聴かせる。 6.1~2 グループ	T1=F T2, T3=W	
終末 3分	7. 自己評価をする。 家庭学習の指示と次時の予告	7. 自己評価カードに記入する。	● 家庭学習で本時に書いた英作文を3回書く。また、メモを取った他の人の意見を英文にしてくれる。	T1=F T2, T3=W

- A（聞くこと）ア強勢，イントネーション，区切りなど基本的な声の特徴をとらえ，正しく聞き取ること。 A（聞くこと）イ自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて，具体的な内容や大切な部分を聞き取ること。
- B（話すこと）ア強勢，イントネーション，区切りなど基本的な英語の音声の特徴に慣れ，正しく発音すること。
- B（話すこと）イ自分の考えや気持ちなどが聞き手に正しく伝わるように話すこと。
- B（話すこと）ウ聞いたり読んだりしたことについて，問答したり意見を述べ合ったりすること。
- B（話すこと）エつなぎ言葉を用いるなどいろいろな工夫をして話が続けるように話すこと。
- C（読むこと）ア文字や符号を識別し，正しく読むこと。
- C（読むこと）イ書かれた内容をもとにしながら黙読したり，その内容が表現されるように音読すること。
- C（読むこと）ウ物語や説明文などのあらすじや大切な部分を読み取ること。
- C（読むこと）エ伝言や手紙などから書き手の意向を理解し，適切に応じること。
- D（書くこと）ア文字や符号を識別し，語と語の区切りなどに注意をして正しく書くこと。
- D（書くこと）イ聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり，感想や意見などを書いたりすること。
- D（書くこと）ウ自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと。
- D（書くこと）ウ自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと。